

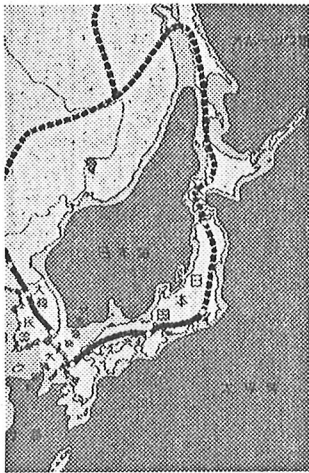
THIS WEEK



あの文鮮明が唱導する 「青函」の約四倍という 「日韓トンネル」の愚挙

佐賀県呼子町から壱岐・対馬を経て、韓国の釜山まで二百三十五キロをトンネルでつなげてしまおう、という途方もない計画がある。

ところが、この計画、日韓の政府間交渉もなく、権威ある研究調査機関も関与していない。あるのは「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会」という民間の一任意団体。この団体は、ほかでもない統一教会を統べる文鮮明の流れをくむもので、計画の発端も同氏のアジアハイウェイ構想の一環だという。



遠大な構想図

「日韓トンネル」は青函トンネルの約四倍。工事費でみても、ざっと三〜四兆円の巨大プロジェクトだ。

日韓トンネル研究会の原美輝事務局長はいう。

「日韓という狭い範囲ではなく、全世界を結ぶ国際ハイウェイ構想の一部分なんです。

民族間の憎悪なんて、双方が血と汗を流してトンネルを掘ることで消えてしまいますよ。

文先生だって、世界平和のためだから身銭を切ることだっていとわないとおっしゃっているんです」

すでに対馬沖で音波探査などの調査が進められているそうだが、この費用は、国際文化財団（創設者は文鮮明）から出ている。

前出、日韓ト



佐々保雄会長

ンネル研究会の佐々保雄会長（地質学者・北大名誉教授）によると――。

「青函トンネルの経験もいかせるし、技術的には可能です。

完成すれば、東アジア共同体（中国・朝鮮半島北部も含む）の実現だって夢じゃない」

トンネルさえ掘れば日韓永遠

の友誼が成り、あわせてミニ大東亜共栄圏まで出来上りそうな

気配だが、この構想、なにやらヒトラーの欧州ハイウェイ構想

を連想させて不気味な感じがしないでもない。掘りゃいいって

もんじゃなものね。